

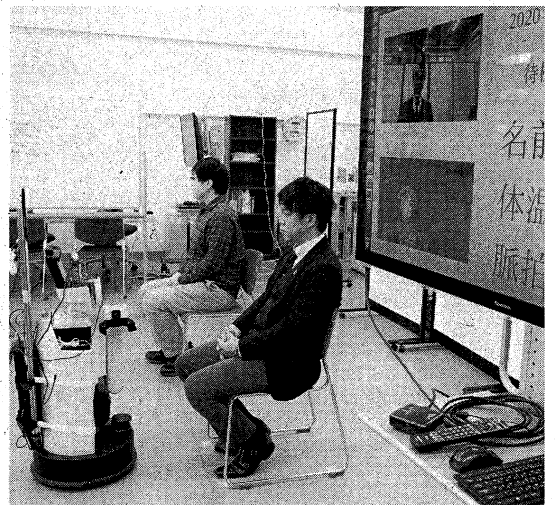
ロボ活用 介護アプリ開発

【相模原】相模原市では市内中小企業が中心となり、産学官連携によるロボット研究に取り組んでいる。ロボットアプリケーション開発や実証実験の実施を目的とする「さがみはらHSR社会実装研究会」は、2019年度に開発した高齢者向け「バイタル測定アプリ」を公開した。トヨタ自動車のロボット「HSR」が移動しつつ高齢者の顔を認識し、体温と心拍数を計測して回る。信頼性に課題は残るが、実用化の可能性は見えてきている。

(相模支局長・石橋弘彰)

相模原市、トヨタと共同

さがみはらHSR研究会はトヨタと市内企業が共同でHSRの実用化に取り組み。市内の情報通信系企業からなる、さがみはらIT協同組合が中心となり、17年度からHSRを使った介護現場のサービスアプリを公開している。19年度は同組合のメンバーであるクフウシヤ(相模原市緑区)がプログラムの担当。H



ロボットを動かした。だが、無線通信環境が悪く計測装置も信頼性が取れない事象

研究通じ市内産業活性化

が低いなどの理由で、計測の中断やデータが取得できない事象が相次いだ。だが、同組合のメンバーは無線通信は改善できるとみる。クフウシヤの大西威一郎社長は「HSRと外部装置を接続し、サービスを提供できるアプリの開発にめどがついた」と話

社の自律移動型ロボットに活用し、実用化を目指すとしている。20年度はボード・プランニング(同緑区)がプログラムやアプリ開発を担当し、6月までに概要を決める。HSRは研究での利用が多く、市も「社会実装につながるアプリには意義がある」と評価する。同組合の杉本理事長は「20年度のテーマにも介護関連のサービスにしたい。ロボット技術を高めることで市内産業の活性化につながる」と意気込む。

躍 A I 活躍

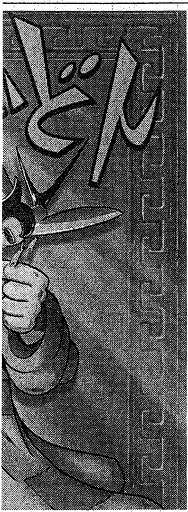
キオクシア

手塚漫画の新作

ソニー

作曲支援サービス

芸術分野にも人工知能(AI)の活躍の場が広がってきた。キオクシアは日本を代表する漫画家の手塚治虫氏の新作漫画制作に、ソニーは作曲にAI技術を活用する。これまでは顧客からの問い合わせ対応や工場の操業効率化などでの導入事例が多かったものの、ここに来て産業界の枠を超えた社会実装が進む。真のAI時代がもうすぐやって来そうだ。



今回のAIはNAND型フラッシュメモリをつくる四日市工場(三重県四日市市)のウエハー検査工程で使

今回のAIはNAND型フラッシュメモリをつくる四日市工場(三重県四日市市)のウエハー検査工程で使

今回のAIはNAND型フラッシュメモリをつくる四日市工場(三重県四日市市)のウエハー検査工程で使

みらい機構・芙蓉リースと提携

ハイボット AIメンテ事業拡大